SAS100/SAS100SU

取扱説明書



Made for iPod

安全上のご注意

- ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他の人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

警告	この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
注意	この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

禁止(してはいけないこと)を示す記号です。

分解してはいけないことを示す記号です。

濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。

水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。

触れてはいけないことを示す記号です。

指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。

電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

CLASS 1
LASER PRODUCT

警告

付属品以外の電源コードは使用しない。
火災の原因になることがあります。

付属品の電源コードを他の機器に転用しない。
火災の原因になることがあります。

日本国外で使用しない。
本製品は国内仕様になっていますので、海外ではご使用になれません。日本国外での使用は、火災・感電や故障の原因となります。

船舶などの直流（DC）電源には接続しない。
火災の原因になります。

電源コードを束ねた状態で本機を使用しない。
火災・感電の原因になります。

電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。
電源コードが破損して火災・感電の原因になります。

電源コードが破損した場合（芯線の露出や断線など）には、販売店または弊社東京サービスセンターに交換（有償）を依頼する。
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

タコ足配線しない。
発熱により火災・感電の原因になります。

テーブルタップ（延長コード）を使用しない。
発熱により火災・感電の原因になります。

雷が鳴りはじめたら､電源プラグには触れない。
感電の原因になります。

電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを本機の下敷きにしない。
電源コードが破損し、火災･感電の原因になります。

煙が出る場合､異常なにおいや音がする場合は、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。
煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社東京サービスセンターに修理を依頼してください。

水道の蛇口付近や風呂場などの濡れている場所や水気の多い場所では使用しない。
火災・感電の原因になります。

本機の内部に水などが入った場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社東京サービスセンターに点検を依頼する。
そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

本機の内部に異物を入れない。
万一、本機の内部に異物が入った場合は、本機の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店または弊社東京サービスセンターに点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

アルコール・シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しない。
引火性溶剤が本機内部の電源部品などに接触すると、火災や感電の原因になります。

分解や改造をしない。
感電の原因になります。

調理台や加湿器の近くなど油煙や湯気があたる場所に設置しない。
火災・感電の原因になることがあります。

直射日光があたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）に設置しない。
キャビネットや内部回路に悪影響が生じ、火災の原因になることがあります。

オーディオ機器を接続するときは、それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のケーブルを使用して接続する。
指定以外のケーブルを使用すると発熱し、やけどの原因になることがあります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。
スピーカーが発熱し、火災の原因になることがあります。

電池を充電しない。
電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

電池からもれ出た液には直接触れない。
液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

ポート（背面開口部）に手を入れない。
感電やけがの原因になります。

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ろうそくなどを置かない。
水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

⚠ 注意

濡れた手でコンセントを抜き差ししない。
感電の原因になります。

長期間本機を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。
火災・感電の原因になります。

電源プラグを抜くときは、電源コードを引っぱらない。
電源コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。

電源プラグは、コンセントの根元まで確実に差し込む。
電源プラグを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。
間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

電池と金属片を一緒にポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。
電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因となります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因となります。

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り出す。
破裂や液もれにより、火災やけがの原因となります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。
ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

不安定な場所や振動する場所には設置しない。
本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

スピーカーの底面積より狭い場所や傾斜のある場所には設置しない。
スピーカーが落下や転倒して、けがの原因になります。

移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。
接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。
聴覚障害の原因となります。

ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクを使用しない。
ディスクは機械内で高速回転しますので、飛び散ってけがの原因になります。

薬物厳禁
ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。
外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

1 もくじ

▶ 本書について

- リモートコントロールでの操作を中心に説明されています。本体での操作については6 ページをご覧ください。
- 本書に記載されている内容は、製品改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

2 はじめに

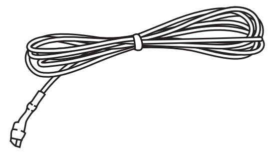
本機の特長

- ◆ 美しいボディシェイプ
- ◆ 本格 2Way ステレオスピーカー
- ◆ 65W × 2 の大出力アンプ
- ◆ iPod、USB ストレージ、CD、FM に対応
- ◆ 2 種類の設定ができるアラームクロック
- ◆ 高い拡張性の外部入出力端子
- ◆ iPod のメニュー操作も可能なリモコン

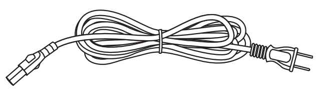
「Made for iPod」とは、iPod 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

付属品

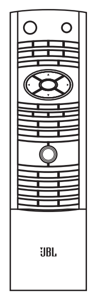
お使いになる前に、以下の付属品がすべて揃っていることをご確認ください。



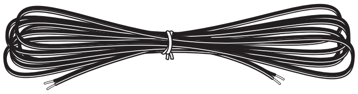
□ FM アンテナケーブル



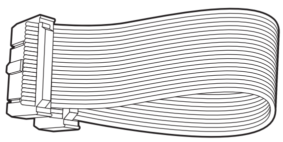
□ 電源ケーブル



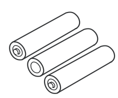
□ リモートコントロール



□ スピーカーケーブル(2m × 2)

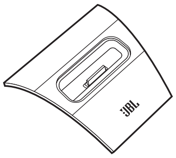


□ 本体接続用リボンケーブル



□ 単 4 乾電池（3 本）

□ 日本語取扱説明書（本冊子）
□ 保証書(日本国内 1 年保証、箱に添付)



□ Bridge II ドッキング
ステーション *

* Bridge II ドッキングステーションは JBL SAS100SU には付属しません。

3 各部の名称とはたらき

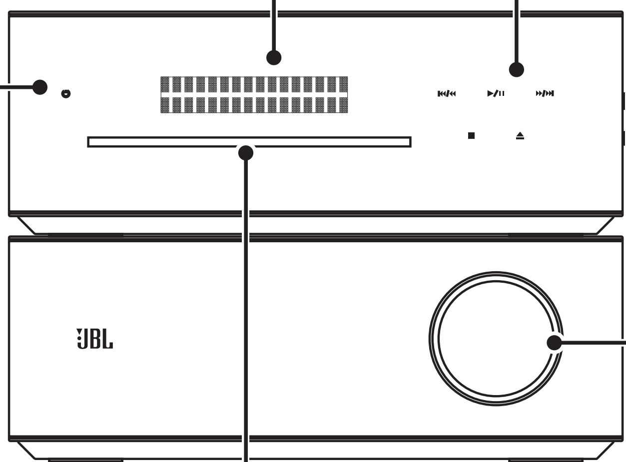
前面

本体の前面パネルはタッチ操作をおこないます。操作アイコンに優しく触れてください。

ディスプレイ
時計表示やメッセージを 2 行の表示部に表示します。

下図をご覧ください。

⏻（電源オン／スタンバイ）
本機の電源をオン／オフ（スタンバイ）します。電源を完全に切るには電源コードを抜いてください。



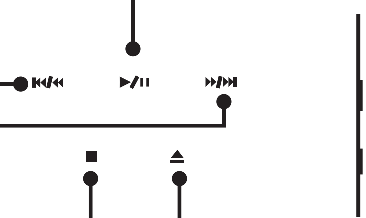
次ページをご覧ください。

音量つまみ
再生音量を調節します。

CD スロット
対応する CD を挿入します。
CD を取り出すときは右の ⏏ ボタンを押します。

▶/II（再生／一時停止）
CD や USB デバイス、iPod の再生を開始または一時停止します。

I◀◀/◀◀ ／ ▶▶/▶▶I（スキップ）
CD、USB デバイスまたは iPod を再生しているときに、再生中のトラック／前のトラック／次のトラックの開始位置にスキップしたり、早戻し／早送りをします。
FM ラジオ使用時に、プリセット局を選んだり、放送局をスキャンします。



■（停止）
CD や USB デバイス、iPod の再生を停止します。

⏏（イジェクト）
CD を取り出します。

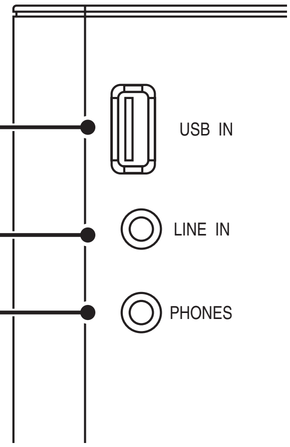
ご注意
・USB 端子には、iPod や iPhone、コンピュータや周辺機器等は接続しないでください。

右側面

USB 端子
USB デバイスを接続します。
この端子に接続した機器を再生するときは、USB A を入力ソースに選びます。

LINE IN（アナログ入力端子）
市販の 3.5mm ステレオミニプラグ付きケーブルを使って外部機器を接続します。
この端子に接続した機器を再生するときは、Line Input を入力ソースに選びます。

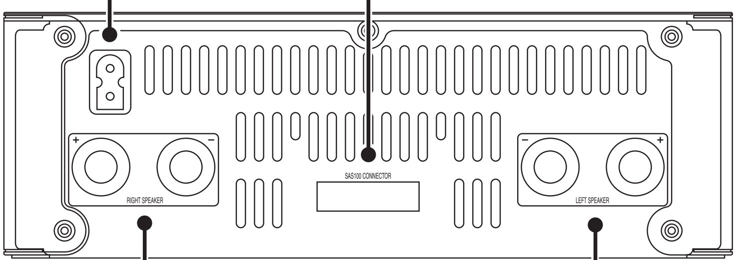
ヘッドホン端子
ヘッドホンを接続します。
ヘッドホンを接続している間は、本機のスピーカーからは音声が出力されません。



背面（アンプ部）

AC 電源入力端子
AC 電源ケーブルを接続します。

リボンケーブル接続端子
付属の接続用リボンケーブルをこの端子とコントローラー部のリボンケーブル接続端子に接続してください。
このケーブルは、コントローラー部からアンプ部にオーディオ信号を通し、アンプ部からコントローラー部に AC 電源を供給します。



スピーカー出力端子（LEFT ／ RIGHT）
付属のスピーカーケーブルで左右のスピーカーを接続します。 赤色の端子が＋端子、黒色の端子がー端子です。
弊社では高性能スピーカーケーブルも用意しております。弊社東京サービスセンターまでご連絡ください。

ご注意
・リボンケーブルが破損した場合は本機の使用を中止し、弊社東京サービスセンターへご連絡ください。

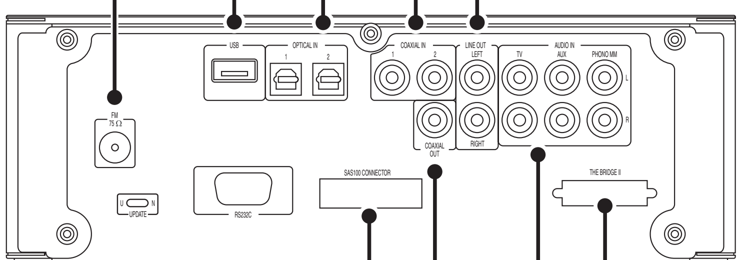
背面（コントローラー部）

USB 端子
USB デバイスを接続します。
この端子に接続した機器を再生するときは、USB B を入力ソースに選びます。

光／同軸デジタル音声入力端子
入力に対応するソースデバイスの光／同軸デジタルオーディオ出力を接続します。

FM アンテナ端子
付属の FM アンテナケーブルを接続します。

アナログ音声出力端子
オーディオレコーダーのアナログオーディオ入力などに接続します。
本機に接続して再生しているソースは、この端子から音声信号が出力され、録音できます。



リボンケーブル接続端子
付属の接続用リボンケーブルをこの端子とアンプ部のリボンケーブル接続端子に接続してください。

Bridge II 入力端子
Bridge II ドッキングステーションを接続し、iPod を接続します。

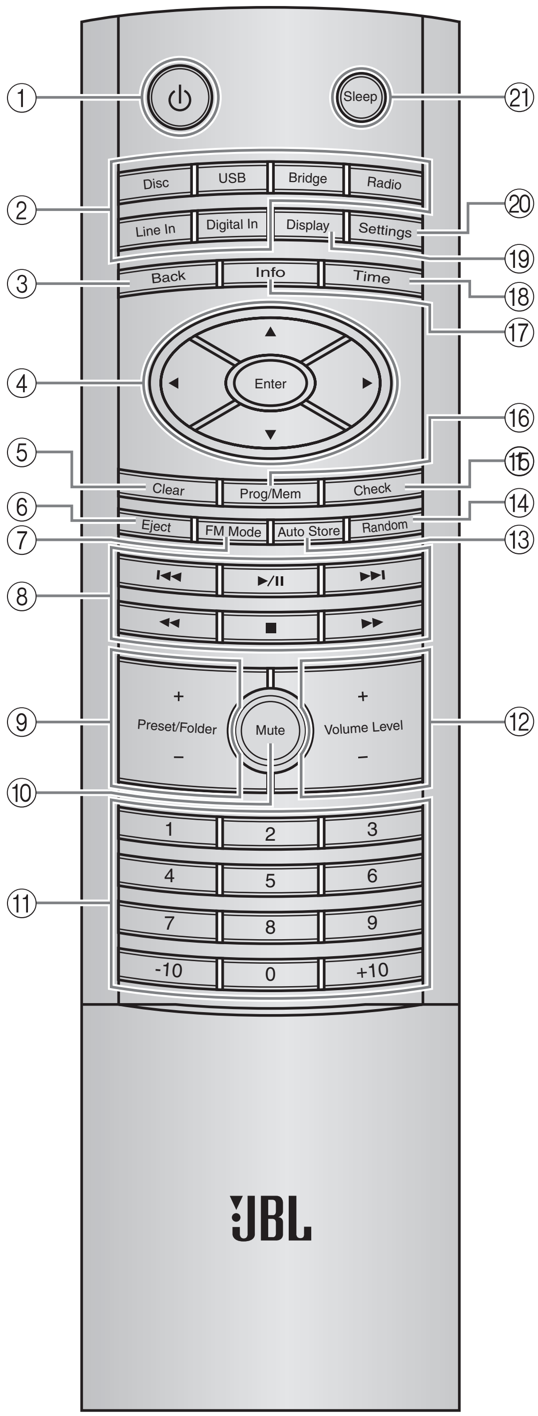
TV、AUX アナログ音声入力端子
テレビやその他機器のアナログ音声出力端子に接続します。
TV 入力端子に接続した機器を再生するときは TV Input、AUX 入力端子に接続した機器を再生するときは Aux Input を選択します。

Phono 入力端子
MM 式のレコードプレーヤーに接続します。その他のレコードプレーヤーを接続しないでください。また MM 式のレコードプレーヤーを他の入力端子に接続しないでください。
この端子に接続した機器を再生するときは、Phono Input を入力ソースに選びます。

同軸デジタル音声出力端子
デジタルオーディオレコーダーの同軸デジタルオーディオ入力などに接続します。
本機に接続して再生しているソースは、この端子から音声信号が出力され、録音できます。

ご注意
- 本機はアナログ音声をデジタル音声出力に変換したり、デジタル音声をアナログ音声に変換して録音できます。
- iPod 再生時にはデジタル音声出力端子からは音声は出力されません。
- 音声ソースのコピーなどに関しては著作権などにご配慮ください。
- リボンケーブルが破損した場合は本機の使用を中止し、弊社東京サービスセンターへご連絡ください。
- RS232C 端子および UPDATE スイッチには手を触れないでください。
- USB 端子には、iPod や iPhone、コンピュータや周辺機器等は接続しないでください。
- ミュート時や音量が –80dB（最低）に設定されているときは、アナログ音声出力端子からは音声は出力されません。

リモートコントロール



① 電源ボタン

本機の電源をオン／オフ（スタンバイ）します。

② ソースセレクターボタン

入力ソースを選択します。

Disc ボタン

CD を再生します。

USB ボタン

USB デバイスを再生します。押すたびに USB A ／ B を切り替えます。

Bridge II ボタン

Bridge II ドッキングステーションに接続した iPod を再生します。

Radio ボタン

FM ラジオを再生します。

Line in ボタン

アナログ入力を再生します。押すたびに LINE IN、TV 入力端子、AUX 入力端子、Phono 入力端子を切り替えます。

Digital in ボタン

デジタル入力を再生します。押すたびに同軸デジタル入力 1 ／ 2、光デジタル入力 1 ／ 2 を切り替えます。

③ Back ボタン

iPod 再生中や設定メニューで押して、一つ前のメニューに戻ります。

④ ナビゲーションボタン

iPod 再生中にコンテンツを選択したり、設定メニューで設定を選択して、Enter で決定します。

⑤ Clear ボタン

現在のラジオのプリセットやプレイリストのエントリーをクリアします。

⑥ Eject ボタン

CD を挿入しているときに押して、CD を取り出します。

⑦ FM Mode ボタン

FM ラジオ再生中に押して、ステレオ再生とモノラル再生を切り替えます。

⑧ **再生コントロールボタン**

再生しているソースによって機能が変わります。詳しくは 16 ページ以降をご覧ください。

⑨ **Preset/Folder ＋／－ボタン**

FM ラジオ再生中はプリセット局を選択します。USB デバイスや CD 再生中はフォルダを選択します。

⑩ **Mute ボタン**

音声をミュートします。もう一度押すとミュートが解除されます。
本体をオフにするとミュートは解除されます。

⑪ **数字キー**

CD のトラック番号や FM ラジオのプリセット番号を入力します。また、時計やアラーム時間の調整に使用します。

＋10 ／ -10 ボタン

多数のトラックがあるときに、10 ずつ前／後のトラックを選択します。

⑫ **音量調節ボタン**

音量の調節をします。長押しすると音量を早く上下させることができます。

⑬ **Auto Store ボタン**

ラジオの放送局を自動でサーチしてプリセットに登録します。

⑭ **Random ボタン**

CD や iPod のランダム再生をオンにします。

⑮ **Check ボタン**

プレイリスト再生中に押すと、プレイリストに登録されている曲を表示します。

⑯ **Prog/Mem ボタン**

プログラム再生やラジオのプリセットに使用します。詳しくは 22 ページや 23 ページをご覧ください。

⑰ **Info ボタン**

使用しません。

⑱ **Time ボタン**

オーディオ CD 再生中に押して、トラックの経過時間や CD の経過時間、CD の残り時間を表示します。

⑲ **Display ボタン**

長押しするたびに、ディスプレイの明るさが「明」→「暗」→「消」と切り替わります。

⑳ **Settings ボタン**

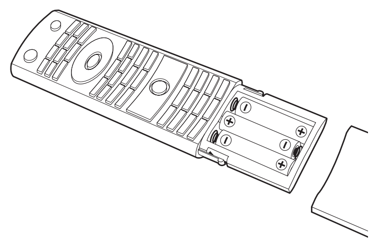
時刻設定、アラーム設定およびトーンコントロールなどに使用します。詳しくは 14 ページ、25 ページ、28 ページ、29 ページをご覧ください。

㉑ **Sleep ボタン**

スリープ機能を設定します。詳しくは 14 ページをご覧ください。

▶ 乾電池をセットする

乾電池ケース内部の指示に従ってプラスとマイナスを正しくセットしてください。

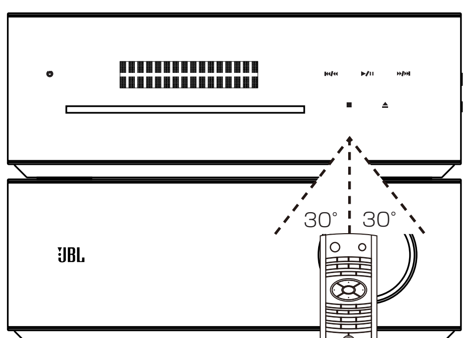


乾電池カバーには表裏があります。JBL ロゴがあるほうを上に向けてカバーを閉じてください。

▶ リモートコントロールの使い方

本機のリモートコントロール受光部に向けて使用します。

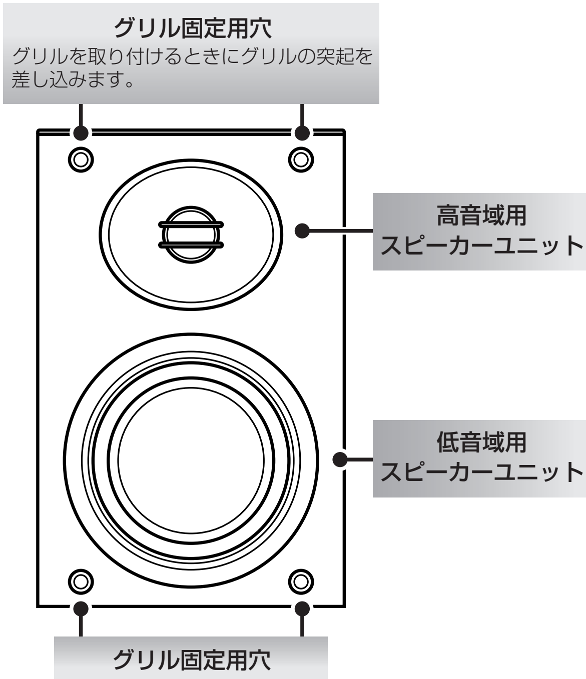
リモートコントロール受光部は本体コントローラー部の右部分にあります。



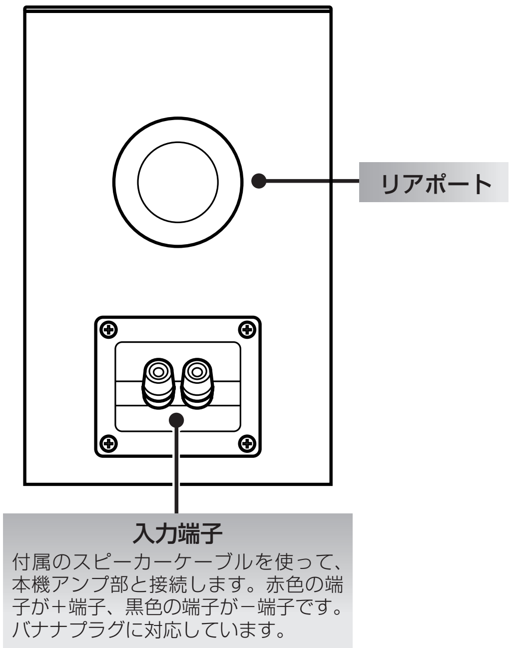
スピーカー

＊スピーカーは JBL SAS100SU には付属しません。

▶ 正面



▶ 背面

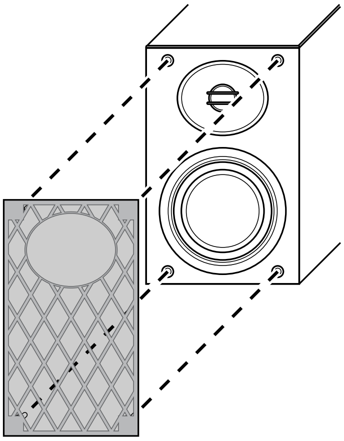


▶ グリルを取り付ける

お好みに応じて、付属のグリルを取り付けることができます。

① グリル四隅の突起をスピーカーのグリル固定用穴に差し込むようにして取り付けます

グリルには上下があります。図のように丸形の骨組みが上になるようにして取り付けてください。



ご注意

- スピーカーは、リアポートと壁に挟まれた空間を利用して低音を増幅します。リアポートをふさがないでください。また、お好みに応じてスピーカーと壁との距離を調整してください。
- スピーカーユニットはとても繊細な部品です。絶対に手を触れないでください。
- ご購入時、入力端子にはプロテクターがささっています。抜いてからご使用ください。

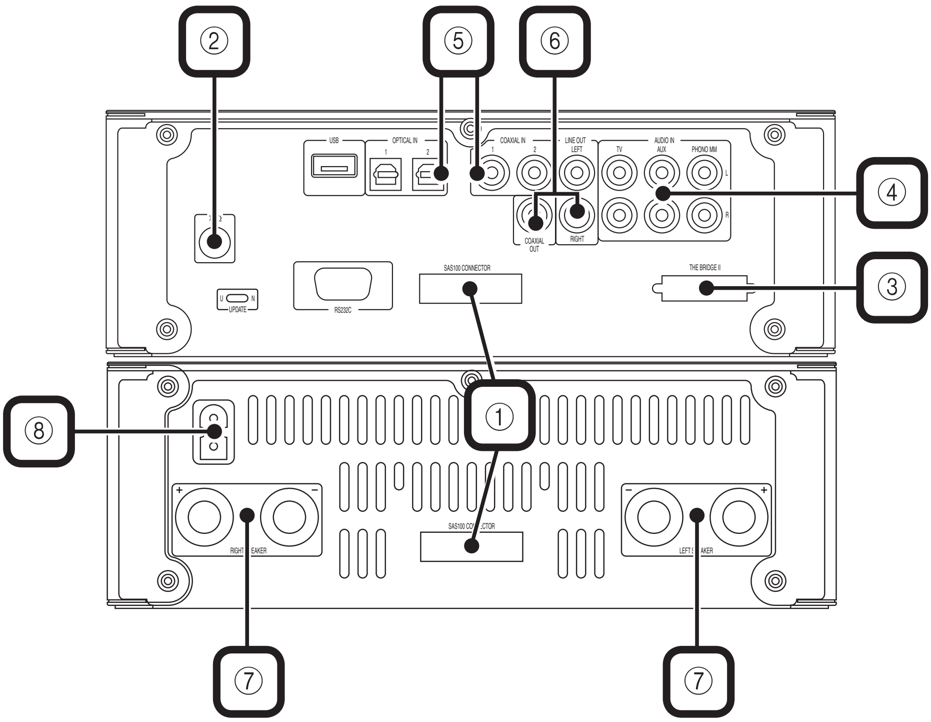
4　ご使用前の準備

スピーカー *、Bridge II ドッキングステーション *、アンテナ、外部機器、電源ケーブルを接続する

* スピーカー、Bridge II ドッキングステーションは JBL SAS100SU には付属しません。

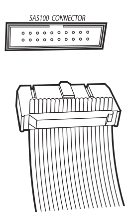
▶ 背面

必ず以下の順番で接続してください。



① **コントローラーとアンプを積み重ね、付属の接続用リボンケーブルでそれぞれのリボンケーブル端子を接続します**

リボンケーブルのコネクターの突起が端子の溝に合うように接続してください。

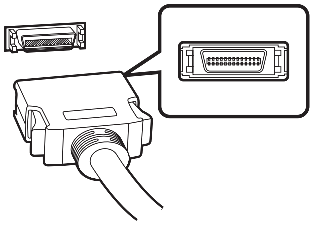


② **FM アンテナを接続します**

FM アンテナ端子の中央の針状の突起に付属の FM アンテナケーブルのコネクターを接続してください。

③ Bridge II ドッキングステーションを接続します

JBL SAS100SU には Bridge II ドッキングステーションは付属しません。
Bridge II端子とBridge IIドッキングステーションのケーブルのコネクターの向きに注意して接続してください。



④ お手持ちのオーディオ機器とアナログオーディオケーブルを用いて接続します

お手持ちのオーディオ機器に搭載されている出力端子に応じて、以下を参照して接続してください。

3.5mm アナログ出力端子がある場合

市販のステレオミニケーブルを使用してお使いのオーディオ機器と本機コントローラー部右側面の LINE IN 端子を接続してください。

RCA アナログ出力端子がある場合

市販の RCA アナログオーディオケーブルを使用してお手持ちのオーディオ機器と本機コントローラー部背面の TV 入力端子または AUX 入力端子を接続してください。
L チャンネルを白色の端子、R チャンネルを赤色の端子に接続します。

MM カートリッジのレコードプレーヤーをお使いの場合

市販の RCA アナログオーディオケーブルを使用してお手持ちのレコードプレーヤーと本機コントローラー部背面の Phono 入力端子を接続してください。また、市販のアース線を使用して、本機 Phono 入力端子の隣の GND 端子に接続してください。
MM 以外のカートリッジをお使いの場合は絶対に接続しないでください。
L チャンネルを白色の端子、R チャンネルを赤色の端子に接続します。
レコードプレーヤーにライン出力端子がある場合は、市販の RCA アナログオーディオケーブルを使用して本機コントローラー部の TV 入力端子または AUX 入力端子を接続してください。

⑤ お手持ちのオーディオ機器とデジタルオーディオケーブルを用いて接続します

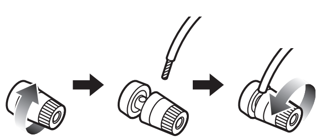
市販のデジタルオーディオケーブルを使用してお手持ちのオーディオ機器と本機コントローラー部背面の光／同軸デジタル入力端子を接続してください。

⑥ お手持ちのオーディオ機器とアナログオーディオケーブルまたはデジタルオーディオケーブルを用いて接続します

市販のデジタルオーディオケーブルまたは市販のアナログオーディオケーブルを使用して、お手持ちのオーディオ機器の入力端子と本機コントローラー部背面のアナログ音声出力端子や同軸デジタル音声出力端子を接続します。
本機で再生している音声を録音することができます。

⑦ スピーカーを設置し、接続します

JBL SAS100SU の場合は、別売りのスピーカー（JBL SAS100SP）または市販のスピーカーを使用してください。
スピーカーを設置する際は、左右のスピーカーと普段音声をお聞きになる位置が正三角形になるように、壁から少し離して設置します。
また、お聞きになる体勢での耳の高さとスピーカーの高さが同じくらいになるように設置します。
付属のスピーカーケーブルを使用してスピーカーの入力端子と本機アンプ部背面のスピーカー出力を接続します。正しい極性（＋端子には白色ケーブル、－端子には黒色ケーブル）で接続してください。



本機はバナナプラグに対応しています。

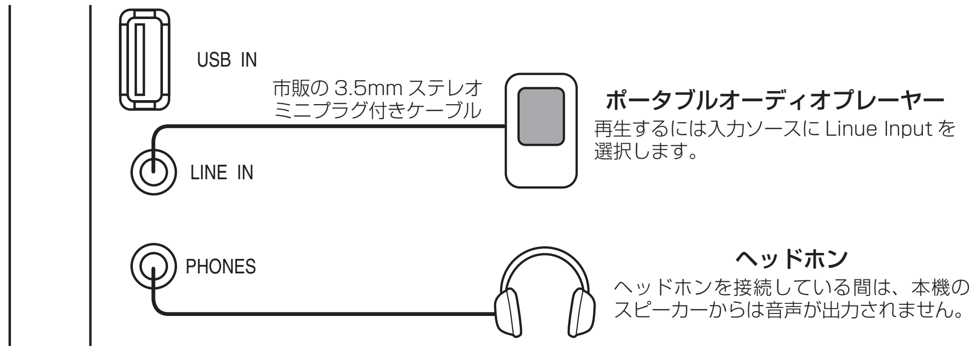
ご注意

- スピーカーをアンプに接続する際は、必ず電源を切ってから作業をおこなってください。電源が入れられたまま接続をおこなうと、アンプやスピーカーを破損する恐れがあります。
- 端子の金属部がケーブルの皮膜を咬まないようご注意ください。接触不良により音が出なくなる場合があります。
- また、ケーブルの導線部同士が接触し、ショートする恐れがありますので、皮膜を長く剥きすぎないようにご注意ください。

⑧ 電源ケーブルを接続します

付属の電源ケーブルを本機アンプ部背面の電源端子に接続したのち、プラグを壁のコンセントに接続してください。

▶ 右側面



時計を合わせる

▶ 時刻を合わせる

① ⏻ を押して、本機の電源をオンにします

② Settings を押して、設定メニューをディスプレイに表示させます

③ ◁ ／ ▷ を押して「Time Setup」を表示させ、Enter を押します

「Clock」が表示されます。

④ ◁ ／ ▷ を押して「Set clock」を表示させ、Enter を押します

「Set Time」が表示されます。

⑤ Enter を押して、数字ボタンで現在の時刻を入力します

時刻を４桁の数字で入力します。
例：12:34 →「1234」と入力します。

⑥ Enter を押して、保存します

▶ 12 ／ 24 時間表示を切り替える

⑦ ◁ ／ ▷ を押して「Set 12/24 hour」を表示させ、Enter を押します

⑧ ◁ ／ ▷ を押して、12 時間表示「12 hour」と 24 時間表示「24 hour」を選びます

⑨ Enter を押して、保存します

⑩ Back を押します

「Time Setup」が表示されます。

▶ 曜日を合わせる

⑪ ◁ ／ ▷ を押して「Set Day」を表示させ、Enter を押します

⑫ ◁ ／ ▷ を押して、曜日を選びます

⑬ Enter を押して、保存します

▶ 時計表示の On ／ Off を切り替える

電源をオフにしたときの時計表示の On ／ Off を切り替えます。

⑭ ◁ ／ ▷ を押して「Clock」を表示させ、Enter を押します

⑮ Enter を押して、◁ ／ ▷ を押して時計表示の On ／ Off を切り替えます

⑯ Enter を押して、保存します

⑰ Back を 2 回押して、再生画面に戻ります

5 基本的な使い方

電源をオンにする

① ⏻ を押します

本機の電源がオンのときは、本体の表示と音量つまみが白く点灯します。

▶ 電源をスタンバイにする

① ⏻ を押します

ご注意

本機はスタンバイ中も電力を消費します。電源を完全に遮断するときは、電源プラグをコンセントから抜いてください。

音量を調節する

① Volume Level + − を押します

音量は –80dB（最小）から +10dB（最大）の間で調節できます。

▶ 一時的にミュート（消音）する

① Mute を押します

- ディスプレイに「MUTE」と表示されます。
- 再度 Mute を押すとミュートが解除されます。

再生するソースを切り替える

① ソースセレクターボタンを押します

- USB デバイスを再生するとき、USB を押すたびに入力が
USB A（右側面の USB 端子）→ USB B（背面の USB 端子）
の順に切り替わります。
- アナログ音声入力端子に入力された音声を再生するとき、Line In を押すたびに入力が
Aux Input（背面の AUX 入力端子）→ TV Input（背面の TV 入力端子）→
Phono Input（背面の Phono 入力端子）→ Line Input（右側面の LINE IN 入力端子）
の順に切り替わります。
- デジタル音声入力端子に入力された音声を再生するとき、Digital In を押すたびに入力が
Coaxial 1（背面の Coaxial 1 入力端子）→ Coaxial 2（背面の Coaxial 2 入力端子）→
Optical 1（背面の Optical 1 入力端子）→ Optical 2（背面の Optical 2 入力端子）
の順に切り替わります。
- CD を挿入したときは、自動的にソースが CD に切り替わります。
- 電源を入れると、前回電源を切ったときに再生していたソースを再生します。

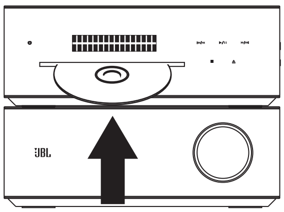
各ソースごとの操作については、以下の各ページをご覧ください

- CD を再生する→次ページ
- USB メディアを再生する→ 18 ページ
- iPod を再生する→ 20 ページ
- FM ラジオを再生する→ 22 ページ

6 CD を再生する

再生を開始する

① 印刷面を上にして CD スロットに CD を挿入します



ディスプレイにトラック数と CD 全体の時間が表示されます。

② [▶/II]を押します

ディスプレイに経過時間が表示されます。

▶ 対応する CD

- オーディオ CD
- CD-R
- CD-RW
- MP3 ／ WMA ファイルが記録されたディスク

再生を一時停止する

① [▶/II]を押します

再度 [▶/II] を押すと、一時停止したところから再生が再開します。

再生をスキップする・早戻し／早送りする

① [I◀◀]／[◀◀]／[▶▶]／[▶▶I]を押します

- [◀◀]／[▶▶]を長押しして、再生中のトラックを早戻し／早送りします。
- [▶▶I]を押すと、次のトラックの先頭にスキップします。
- [I◀◀]を押すと、再生中のトラックの先頭にスキップします。
- [I◀◀]を短く２回押すと、前のトラックの先頭にスキップします。

ご注意
トラックをまたいだ早戻しはできません。

▶ オーディオ CD について

- 数字ボタンを押して、トラック番号を指定してスキップすることができます。
- トラックが 10 以上あるとき、+10 ／ –10 ボタンを押して、10 個後／前のトラックの先頭にスキップします。

▶ データ CD について

- WMA ／ MP3 をフォルダに分けて CD に記録しているとき、[+ Preset/Folder –]を押してフォルダを選びます。
- また、数字ボタンの +10 ／ –10 ボタンを押して、フォルダ内のファイルをすばやくスキップできます。

ランダム再生する

① [Random]を押します

ディスプレイに が表示されます。
再度 [Random]を押すと、ランダム再生は解除されます。

再生を停止する

① [■]を押します

ディスプレイに CD のトラック数と CD 全体の時間が表示されます。

▶ CD を取り出す

① [Eject]を押します

CD スロット右側のイジェクトボタンに触れて CD を取り出すこともできます。

残り時間、CD 全体の経過時間、残り時間を表示する

オーディオ CD の再生中のみ使用できます。

① [Time]を繰り返し押します

ディスプレイ表示が
経過時間→残り時間→ CD 全体の経過時間→ CD 全体の残り時間
の順に切り替わります。

▶ データ CD について

・本機が対応する MP3 ／ WMA ファイルは以下のとおりです。

	ビットレート	サンプリング周波数	拡張子
MP3 ファイル	32/44.1/48kHz	32 ～ 320kbps	.mp3
WMA ファイル	32/44.1/48kHz	64 ～ 192kbps	.wma

・MP3 ／ WMA ファイル名には必ず対応する拡張子をつけてください。
・著作権保護されたファイルは再生できません。
・対応する MP3 ／ WMA ファイル以外のデータが記録されていると再生できないことがあります。
・対応する MP3 ／ WMA ファイルであっても本機で再生できないことがあります。
・一つのフォルダ内のフォルダとトラックの数は、最大 9999 曲に制限されます。
・お使いのパソコンによっては、トラック数が正しく表示されないことがあります。

7　USB デバイスを再生する

再生を開始する

① 本機コントローラー部背面や右側面のUSB デバイス端子に USB デバイスを接続します

ファイルの合計数がディスプレイに表示されます。

> ご注意
> 本機コントローラー部右側面の USB デバイス端子に接続する際は、USB デバイスの破損を防ぐために十分なスペースを確保してください。

② [►/II] を押します

ディスプレイに経過時間が表示されます。

再生を一時停止する

① [►/II] を押します

再度 [►/II] を押すと、一時停止したところから再生が再開します。

再生をスキップする・早送り／早戻しする

① [⏮]／[⏪]／[⏩]／[⏭] を押します

- [⏪]／[⏩] を長押しして、再生中のトラックをサーチします。
- [⏭] を押すと、次のトラックの先頭にスキップします。
- [⏮] を押すと、再生中のトラックの先頭にスキップします。
- [⏮] を短く２回押すと、前のトラックの先頭にスキップします。

WMA ／ MP3 ファイルをフォルダに分けて USB デバイスに記録しているときは、[Preset/Folder +/−] を押してフォルダを選びます。

また、数字ボタンの +10 ／ -10 ボタンを押して、フォルダ内のファイルをすばやくスキップできます。

ランダム再生する

① [Random] を押します

ディスプレイに　が表示されます。

再度 [Random] を押すと、ランダム再生は解除されます。

再生を停止する

① ［■］を押します

ディスプレイに USB メディア内のファイル数が表示されます。

▶ USB デバイスについて

- 本機は FAT32 形式でフォーマットされた、マスストレージクラスまたは MTP 対応のフラッシュメモリードライブとハードディスクドライブに対応しています。
- 対応している USB デバイスであっても本機で認識しないことがあります。
- USB ハブは使用しないでください。
- 本機が対応する MP3 ／ WMA ファイルは以下のとおりです。

	ビットレート	サンプリング周波数	拡張子
MP3 ファイル	32/44.1/48kHz	32 ～ 320kbps	.mp3
WMA ファイル	32/44.1/48kHz	64 ～ 192kbps	.wma

- MP3 ／ WMA ファイル名には必ず対応する拡張子をつけてください。
- 著作権保護されたファイルは再生できません。
- 対応する MP3 ／ WMA ファイル以外のデータが記録されていると再生できないことがあります。
- 対応する MP3 ／ WMA ファイルであっても本機で再生できないことがあります。
- 一つのフォルダ内のフォルダとトラックの数は、最大 9999 曲に制限されます。
- お使いのパソコンによっては、トラック数が正しく表示されないことがあります。

8 iPod を再生する

Bridge II ドッキングステーションにお手持ちの iPod をセットする

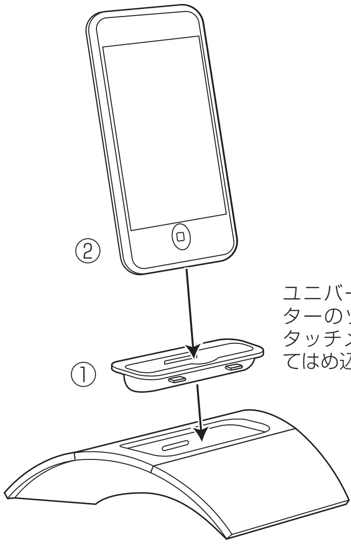
* Bridge II ドッキングステーションは JBL SAS100SU には付属しません。

① ユニバーサル Dock アダプターを Bridge II ドッキングステーションにセットします

iPod に付属または市販のユニバーサル Dock アダプターを Bridge II ドッキングステーションにセットします。

② iPod を Bridge II ドッキングステーションにセットします

ご注意
- ご使用になる iPod と適合しないアダプターを取り付けて Dock 接続すると、ぐらつきが生じ、双方の Dock コネクターを破損する可能性があります。
- iPod を取り外すときは、再生が止まった状態で取り外してください。
- Bridge II ドッキングステーションのアタッチメントがはずれた場合は、上から軽く押し込むようにしてセットし直してください。



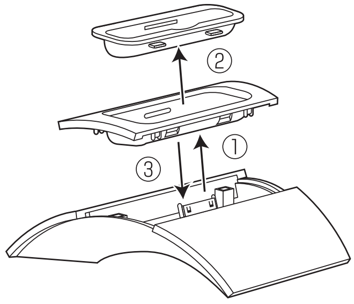
ユニバーサル Dock アダプターのツメ（2 カ所）をアタッチメントの穴に合わせてはめ込みます。

▶ Bridge II ドッキングステーションからユニバーサル Dock アダプターをはずす

① Bridge II ドッキングステーションのアタッチメントごとユニバーサル Dock アダプターをはずします

② Bridge II ドッキングステーションのアタッチメントの裏から押して、アタッチメントからユニバーサル Dock アダプターをはずします

③ Bridge II ドッキングステーションのアタッチメントを Bridge II ドッキングステーションにセットします



リモートコントロールで iPod をコントロールする

本機のリモートコントロールを使用して接続したiPod をコントロールすることができます。

▶/II

- 再生を開始・一時停止します。
- iPod の▶IIに対応しています。

I◀◀

- 再生中の曲の先頭にスキップします。
- 2 回押すと前の曲の先頭にスキップします。
- iPod のI◀◀に対応しています。

◀◀

- 長押しすると再生が早戻しされます。

▶▶I

- 次の曲の先頭にスキップします。
- iPod の▶▶Iに対応しています。

▶▶

- 長押しすると再生が早送りされます。

▲ ／ ▼

- メニュー項目を選択します。
- iPod クリックホイールの操作（左回り／右回り）に対応しています。

Back

- 一つ前のメニューに戻ります。
- iPod の MENU キーに対応しています。

Enter

- メニュー項目を選択します。
- iPod のセンターボタンに対応しています。

ご注意
iPod touch では、本機のリモートコントロールによる操作は iPod メニューに関する操作に限られます。

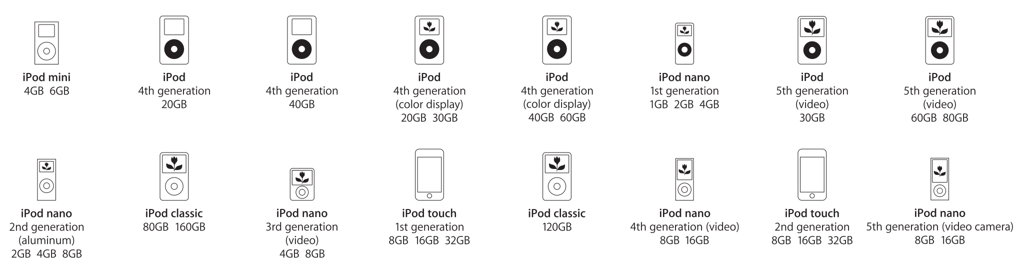
ランダム再生する

① Random を押します

再度 Random を押すと、ランダム再生は解除されます。

▶ 本機に対応する iPod（2009 年 11 月現在）

・第４世代以降の iPod　・iPod classic　・iPod mini
・iPod nano　・iPod touch



iPod は米国およびその他の国で登録されている Apple, Inc. の登録商標です。

ご注意

- iPhone、iPod（第 1、第 2、第 3 世代）には対応していません。
- お使いの iPod やファームウェアのバージョンによっては、すべての機能がお使いいただけない場合があります。
- 最新の iPod 対応状況については、弊社ホームページに掲載いたします。また、サポート情報はメールなどでもご案内いたしますので、オンラインご愛用者登録をお勧めいたします。
  http://www.harman-design.jp/sas100/
- iPod のファームウェアアップデートによって、現在お使いいただける機能の一部が将来制限される可能性があります。

9 FMラジオを聞く

放送局を受信する

① [◂◂]／[▸▸]を押して、放送局を受信します

- 押すたびに周波数を 0.05MHz ずつ上下させることができます。
- 長押しすると、受信できる放送局を自動的にサーチします。

ヒント

- 受信状態がよくなるように FM アンテナの位置を調整してください。
- 電波の受信状態に応じて、自動的にステレオ受信とモノラル受信が切り替わります。
- また、[FM Mode]を押してステレオ受信とモノラル受信を切り替えることができます。
- お住まいの地域の電波の状況によっては、ラジオを受信できないことがあります。

お気に入りの放送局を登録する

お気に入りの放送局を登録して簡単に呼び出すことができます。

① [◂◂]／[▸▸]を押して、登録したい放送局を受信します

② [Prog/Mem]を押します

- 空いているプリセット番号が表示されます。表示されたプリセット番号に登録する場合は (Enter) を押します。
- 他のプリセット番号に登録する際は、数字キーで希望の番号を入力し、 (Enter) を押します。

- 最大 30 局を登録できます。一杯になると、古いプリセット番号から順に上書きされます。
- 登録した放送局を呼び出すときは[+ Preset/Folder −]または数字キーを押して、プリセット番号を入力します。

登録した放送局を削除する

以下の手順で不要な放送局を削除します。

① [+ Preset/Folder −]または数字キーでプリセット番号を入力して、削除したい放送局を受信します

② [Clear]を押してから (Enter) を押して、放送局を削除します

10 プログラム再生をおこなう

本機では、オーディオ CD やデータ CD、USB デバイスのトラックを使ってプレイリストを作成し、プログラム再生をおこなうことができます。

本機の電源がオフになったり、CD や USB デバイスが取り出されると、プレイリストは破棄されます。また、再生ソースを切り替えてもプレイリストは破棄されます。

プレイリストを作成する

① 本機の再生が停止していることを確認します

② [Prog/Mem]を押して、プログラム再生モードに切り替えます

プログラム再生モードを解除するには、[■]を押します。

③ [⏮]／[◀◀]や[▶▶]／[⏭]、数字キー等を使ってプレイリストに追加したいトラックを選び、[Prog/Mem]を押してプレイリストに追加します

④ 手順③を繰り返し、プレイリストに登録したいトラックを追加します

- プレイリストには最大 99 トラックまで登録することができます。
- 登録を間違った場合は、「プレイリストを編集する」を参考にしてトラックを削除してください。

⑤ [▶/II]を押して、プログラム再生を開始します

- 再生中は、プレイリスト中のエントリー番号と、CD 上のトラック番号が表示されます。
- プレイリストの最後まで再生すると、プレイリストの先頭に戻って再生します。
- プログラム再生を開始せずにトラックの追加を終了したい場合は[■]を押します。

プログラム再生を停止する

① [■]を押します

- 再びプログラム再生を開始するには、[▶/II]を押します。
- プレイリストは本機に保存されています。

プレイリストを確認する

① 再生停止中に[Check]を押します

押すたびに、プレイリスト内の次のトラックを確認できます。

プログラム再生を終了する

① 再生停止中に[Clear]を押します

作成したプレイリストは破棄され、プログラム再生が終了します。

プレイリストを編集する

▶ トラックを追加する

① Prog/Memを押します

「プレイリストを作成する」の手順③に従ってトラックを追加します。

② ▶/IIを押して、プログラム再生を再開します

▶ トラックを削除する

① 再生停止中にCheckを繰り返し押して、削除するトラックを表示します

② Clearを押して、トラックを削除します

③ ■を押した後、▶/IIを押して、プログラム再生を再開します

11 タイマー機能を使う

スリープタイマーを使う

① Sleep を押します

- 繰り返し押して、10 分から 90 分まで 10 分刻みで設定できます。
- スリープタイマーを解除するには、Off に設定します。

設定した時間が経過すると本機は自動的にスタンバイ状態になります。

タイマー再生機能を使う

本機では、2 系統（Alarm 1 ／ Alarm 2）のタイマー再生設定をおこなうことができます。また、ひとつの系統の中でも、タイマー再生の On ／ Off やタイマー再生時刻を平日と週末に分けて設定することができます。

再生ソースやタイマー再生時刻は Alarm 1 ／ Alarm 2 別々に設定することができますが、再生時間設定、スヌーズ設定、再生音量設定は Alarm 1 ／ Alarm 2 共通です。

大音量や長時間のタイマー再生は、近隣環境に迷惑となる場合があります。注意して設定してください。

タイマー再生が On のとき、時計表示を On（14 ページ）に設定していると、電源がオフのときにディスプレイに「Al 1」または「Al 2」と表示されます。

▶ 平日のタイマー再生 On ／ Off を切り替える

① 本機の電源が入っていることを確認します

② Settings を押して設定メニューをディスプレイに表示させます

③ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、ディスプレイに「Alarm Setup」を表示させ、 Enter を押します

④ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、「Alarm 1」または「Alarm 2」を表示させ、 Enter を押します

⑤ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、「Weekday: On」または「Weekday: Off」を表示させ、 Enter を押します

⑥ ◁ ／ ▷ を押して、平日のタイマー設定の On ／ Off を選択します

⑦ Enter を押して、設定を保存します

▶ 平日のタイマー再生時刻を設定する

⑧ ／ を繰り返し押して、「Weekday Time」を表示させ、 Enter を押します

⑨ 数字キーを押して、再生時刻を入力します

- 時計を 24 時間表示にしている場合
  時刻を４桁の数字で入力します。例：12:34 →「1234」と入力します
- 時計を 12 時間表示にしている場合
  時刻を４桁の数字で入力し、 Enter を押した後、 ／ を押して「AM」または「PM」を選択します。
  例：午後 8:34 →「0834」と入力、 Enter を押した後、 ／ を押します。
- 数字キーを押さずに Enter を押すと、「時」設定は変更せずに「分」設定をおこなうことができます。「分」設定を２桁の数字で入力します。

⑩ Enter を押して、設定を保存します

▶ 週末のタイマー再生 On ／ Off を切り替える

⑪ ／ を繰り返し押して、「Weekend: On」または「Weekend: Off」を表示させ、Enter を押します

⑫ ／ を押して、週末のタイマー設定の On ／ Off を選択します

⑬ Enter を押して、設定を保存します

▶ 週末のタイマー再生時間を設定する

⑭ ／ を繰り返し押して、「Weekend Time」を表示させ、 Enter を押します

⑮ 数字キーを押して、再生時刻を入力します

「平日のタイマー再生時刻を設定する」と同じように入力します。

⑯ Enter を押して、設定を保存します

▶ 再生ソースを設定する

⑰ ／ を繰り返し押して、「Source」を表示させ、 Enter を押します

⑱ ／ を繰り返し押して、再生したいソースを選択します

⑲ Enter を押して、設定を保存します

⑳ Back を３回押して、再生画面に戻ります

▶ タイマー再生継続時間を設定する

この設定は Alarm 1 ／ Alarm 2 ともに共通です。ここで設定した時間アラーム再生をおこないます。

① 本機の電源が入っていることを確認します

② Settings を押して設定メニューをディスプレイに表示させます

③ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、ディスプレイに「Alarm Setup」を表示させ、 Enter を押します

④ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、「Timeout」を表示させ、 Enter を押します

⑤ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、タイマー再生時間を設定します
10 分から 60 分まで、10 分刻みで設定できます。

⑥ Enter を押して、設定を保存します

▶ スヌーズ時間を設定する

この設定は Alarm 1 ／ Alarm 2 ともに共通です。アラーム再生中に ⏻ または Sleep を押して再生を中断した後、再び再生するまでの時間を設定します。

時計表示が On（14 ページ）のとき、スヌーズ中はディスプレイに「Snoozed」と表示されます。

⑦ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、「Snooze」を表示させ、 Enter を押します

⑧ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、スヌーズ時間を設定します
5 分から 30 分まで、5 分刻みで設定できます。

⑨ Enter を押して、設定を保存します

▶ アラーム再生音量を設定します

この設定は Alarm 1 ／ Alarm 2 ともに共通です。

⑩ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、「Level」を表示させ、 Enter を押します

⑪ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して、タイマー再生音量を設定します
–80dB から +10dB まで設定できます。機器の故障を防ぐため、0dB を超える音量設定は避けてください。

⑫ Enter を押して、設定を保存します

⑬ Back を 2 回押して、再生画面に戻ります

⑭ ⏻ を押して、電源をオフにします

タイマー再生を解除する

① ⏻ を押し、電源が切れたことを確認した後、 ⏻ をもう一度押します
アラーム再生が解除されます。

12 トーンコントロール

本機ではトーンコントロール設定でお好みで高音域や低音域を強調／低減したり、ステレオバランスを調整することができます。

▶ 高音域を調整する

① 本機の電源が入っていることを確認します

② Settings を押して、設定メニューをディスプレイに表示させます

③ ◁／▷ を繰り返し押して、ディスプレイに「Speaker Setup」を表示させ、Enter を押します

④ ◁／▷ を繰り返し押して、ディスプレイに「Treble」を表示させ、Enter を押します

⑤ ◁／▷ を繰り返し押して、高音域の調整をおこないます

–10dB から +10dB まで設定できます。

⑥ Enter を押して、設定を保存します

▶ 低音域を調整する

⑦ ◁／▷ を繰り返し押して、ディスプレイに「Bass」を表示させ、Enter を押します

⑧ ◁／▷ を繰り返し押して、低音域の調整をおこないます

–10dB から +10dB まで設定できます。

⑨ Enter を押して、設定を保存します

▶ ステレオバランスを調整する

本機の再生中に左右の音のバランスが悪いときのみ調整してください。

⑩ ◁／▷ を繰り返し押して、ディスプレイに「Balance」を表示させ、Enter を押します

⑪ ◁／▷ を繰り返し押して、ステレオバランスの調整をおこないます

- L12 ～ L1、Center、R1 ～ R12 から選択できます。
- 設定に応じて、左右の音量を最大で 12dB 強調して再生します。

⑫ Enter を押して、設定を保存します

⑬ Back を２回押して、再生画面に戻ります

13 その他

システムのバージョンを確認する

以下の手順でシステムのバージョンを確認することができます。弊社東京サービスセンターにお問い合わせいただく際には、あらかじめシステムのバージョンを調べておいてください。

① 本機の電源が入っていることを確認します

② Settings を押して、設定メニューをディスプレイに表示させます

③ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して「System Version」を表示させ、Enter を押します

⑬ Back を２回押して、再生画面に戻ります

システムをリセットする

システムが不安定になった場合は、以下の手順でシステムをリセットしてください。問題が解消することがあります。

ご注意

システムをリセットすると、FM ラジオのプリセットが工場出荷時の状態に戻ります。22 ページを参考に、プリセットを登録し直してください。

① 本機の電源が入っていることを確認します

② Settings を押して、設定メニューをディスプレイに表示させます

③ ◁ ／ ▷ を繰り返し押して「System Reset」を表示させ、Enter を押します

確認を求めるメッセージがディスプレイに表示されます。

④ Enter を押して、システムをリセットします

本機のお手入れについて

- 本体が汚れたときは、乾いた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジンなど、揮発性の溶剤を含むものは絶対に使用しないでください。また、スプレー式殺虫剤などがかからないようにご注意ください。
- グリルは水洗いしないでください。グリルに色むらや、たるみが発生する恐れがあります。
- スピーカーユニットに手が触れないよう十分ご注意ください。

14 トラブルシューティング

原因	解決法
を押しても電源が入らない。	電源コードが正しく接続されていることを確認してください。万一、 を押したときに「PROTECT」と表示されるときは、すみやかに電源コードを外し、販売店または弊社東京サービスセンターに修理を依頼してください。
電源は入るが、音が出ない。	を押して再生が一時停止になっていないかご確認ください。
	を押してミュート機能がオンになっていないかご確認ください。
	を押して音量を上げてください。
	入力ソースをご確認ください。外部機器をお使いの場合は、本機と外部機器の接続を確認し、外部機器で正しく再生がおこなわれているかご確認ください。
	ヘッドホンを接続している場合は、ヘッドホンを外してください。
左右の音のバランスが悪い。	左右のスピーカーの極性が正しく接続されているかご確認ください。また、ケーブル同士が接触していないかどうかご確認ください。
	ステレオバランスの調整（28 ページ）をおこなってください。
	スピーカーに問題が発生している可能性があります。販売店または弊社東京サービスセンターに点検を依頼してください。
リモートコントロールで操作できない。	乾電池が消耗している場合は、乾電池を交換してください。
	リモートコントロールを本機のリモートコントロール受光窓（10 ページ）に向けて操作してください。
	本機のリモートコントロール受光窓（10 ページ）に直射日光があたっていないかご確認ください。
MP3 ／ WMA ファイルが再生できない	ファイルが著作権保護されているか、対応していないフォーマット（16 ページ、19 ページ）の可能性があります。他のファイルを選んでください。
CD-R ／ CD-RW を認識しない	CD-R ／ CD-RW がファイナライズされているかどうかご確認ください。
	CD の記録状態が悪い可能性があります。正しく記録された CD をご使用ください。
USB デバイスを認識しない	USB デバイスが正しく接続されているかご確認ください。
	本機が対応していない USB デバイス（19 ページ）を接続している可能性があります。本機が対応している USB デバイスを接続してください。
	USB ハブを使用していないかご確認ください。
	USB デバイスが FAT32 以外のフォーマットになっていないかご確認ください。
	USB デバイスが複数のパーティションに分かれている可能性があります。複数のパーティションに分かれている場合は、第一パーティションに記録されている MP3 ／ WMA ファイルのみ再生できます。
ラジオ受信時にノイズが混ざる。	ノイズが少なくなるよう、アンテナの位置を調整してください。
	アンテナの接続を確認してください。
システムの挙動がおかしい	システムをリセット（前ページ）してください。システムをリセットしても直らない場合は、弊社東京サービスセンターに点検を依頼してください。

15 主な仕様

定格出力	65W × 2
スピーカー構成	2 ウェイブックシェルフ型 （125mm 径フラットダイアフラムウーファー、25mm 径 MMD® ドームツイーター）
システム周波数特性	20Hz 〜 35kHz
CD プレーヤー部	［対応 CD］音楽 CD、CD-R/RW（音楽 CD、MP3、WMA） ［再生機能］ランダム再生
iPod Dock 部	ユニバーサルドックアダプター対応 ［対応 iPod（2009 年 11 月現在）］第 4 世代クリックホイール以降の iPod、iPod classic、iPod nano、iPod mini、iPod touch ＊ iPhone には対応しておりません。
FM チューナー部	［受信周波数］76.0MHz 〜 90.0MHz　＊ AM チューナーは搭載しておりません。 ［関連機能］プリセットメモリー：30
クロック部	時刻表示、アラーム機能、スリープタイマー
音声入力	iPod dock（Bridge II）× 1、S/PDIF 角型× 2、同軸デジタル× 2、ステレオミニ× 1、 RCA ステレオ× 2、PHONO（MM）× 1
音声出力	ヘッドホン（ステレオミニ）× 1、RCA ステレオ× 1、同軸デジタル× 1
USB 端子	TypeA × 2
電源電圧	100V（50Hz ／ 60Hz）
消費電力	150W 以下
待機時消費電力	2W 以下（時計表示時）、1W 以下（時計非表示時）
サイズ	コントローラー：幅 240mm × 高さ 90mm × 奥行 250mm（突起物含む） アンプ：幅 240mm × 高さ 90mm × 奥行 270mm（突起物含む） スピーカー：幅 181mm × 高さ 272mm × 奥行 210mm（突起物含む）
重量	コントローラー：2kg アンプ：2.7kg スピーカー：4.2kg × 2
付属品	電源ケーブル× 1 リモートコントロール× 1 Bridge II ドッキングステーション× 1 FM アンテナケーブル× 1 スピーカーケーブル× 2 本体接続用リボンケーブル× 1 単 4 乾電池（3 本）× 1 日本語取扱説明書（本冊子） 保証書（日本国内 1 年保証、箱に添付）

＊仕様および外観は、製品の改良のため予告なく変更することがあります。

＊対応 iPod などの最新情報は http://www.harman-design.jp/sas100/ をご覧ください。

▶ オンラインご愛用者登録のご案内

この度は JBL 製品をご購入いただき誠にありがとうございます。弊社では JBL 製品のご購入者を対象に、ホームページ上にてオンラインご愛用者登録をおこなっております。ご登録いただいたお客様には、サポート情報やキャンペーン情報、新製品情報など JBL 製品の最新情報をお送りいたします。

http://www.harman-design.jp/sas100/

このアドレスでトップページにアクセスし、「ご愛用者登録」をクリックしてください。

携帯電話からはご登録できませんのでご注意ください。

※ご愛用者登録でご不明な点がございましたら、下記連絡先へお問い合わせください。
E-mail:support@harman-multimedia.jp
Tel. 050-5561-1560

▶ アフターサポート

日本国内のアフターサポートに関する情報は、ハーマンインターナショナル株式会社ホームページに掲載しています。
http://www.harman-design.jp/sas100/
日本国内のアフターサポートに関するお問い合わせは、ハーマンインターナショナル株式会社　東京サービスセンターまでご連絡ください。

ハーマンインターナショナル株式会社 東京サービスセンター
〒 135-0033 東京都江東区深川 1-6-29　結城運輸倉庫（株）内
Tel. 050-5561-1560
E-mail:support@harman-multimedia.jp
http://www.harman-design.jp/

harman international
ハーマン インターナショナル 株式会社